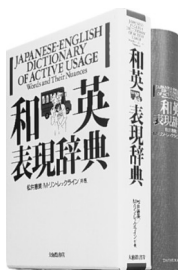


和英表現辞典

松井恵美／M・リン・レックライン 共著



溝畑保之

(大阪府立鳳高等学校教諭)

文部科学省の「英語が使える日本人育成のため」の行動計画が動き出し、実践的コミュニケーション能力の育成が叫ばれ、様々なかたちで発信型への移行が模索されるなか、自然な英文を書くための辞書の到来が待たれていた。

まず、この『和英表現辞典』は、1321に及ぶ日本人が英語で言えない表現や、誤りを犯しやすい表現を精選していることが特徴である。日本人の誤りを長年研究してきた著者が取り上げたものは、よく筆者が授業中に出くわす高校生レベルの誤用と重なる。このような表現を英語に直す際の留意点を効果的に盛り込んでいて、授業での解説の参考となる。例えば、日本人が好む「よい思い出をつくりたい」という発想自体が英語になりにくいことや、「～したいと思う」が決して I think I want とならないことを解説している。また、「すること」p. 251の項では、不定詞の使用について factive (事実 to 立脚) と non-factive (事実 to 立脚しない) の観念を区別することが日本語にないことを述べた解説が参考になる。

他には、関連語 (音楽、学校、感情、住居、など) と類義語 (結果、行為、退屈など) の持つ微妙な意味の違いが親切にリストで提供されている。イラストでの図解 (家、体、自動車など) も適所に見られる。見出し語で「擬声語」の項を引くと、「のろのろ」「いそいそ」「しとしと」などに加えて、自然界の音や動物の鳴き声をまとめて挙げていることも特色である。

自然な英文を書こうとして他の和英辞書で行き詰った時に、異なる観点から英語への道しるべを示してくれる辞書であることは勿論、読んでおもしろい辞書としても活用したい。

最新アメリカ英語表現辞典

市橋敬三 著



生田省三

(愛知県立刈谷高等学校教諭)

書名が表すとおり、この本は辞典である。ただし、これまでの多くの辞典が英英辞典や別の英和辞典を参考にしながら作られているのに対し、この辞典は74名の太卒米人インフォーマント (30から45歳) の意見によっている。今まさに、アメリカで使われている、いやむしろ話されている標準的な英語に焦点を当てて編纂されている。

例えば、「痛い」と言う項目では、痛みの箇所、痛みぐあいなどにより、6頁を割いて事細かに説明している。それを見ていくうちにそれを表すいろいろな表現とそのニュアンスを知ることができる。

また、これまでの辞典で「夕方」と言えば必ず、evening であったが、次の記述など、思わず「そうだ」と相槌を打ちたくなる。

〈私に夕方電話しないで下さい〉

- ◎A Please don't call me late in the afternoon.
- △B Please don't call me in (the) late afternoon.
- ×C Please don't call me in the evening.

◆辞典にCが出ているが使われていない。

教育現場では、アメリカ英語だけを扱うというわけではないので、アメリカ英語と限定されるのは、ちょっとどうかと私自身思ったのであるが、ありがたいことに各所に「アメリカでは使われないがイギリス英語ではよく使われる」と言った記述がある。こういう著者の気配りがうれしいものである。

この辞典は和英辞典と同じ編纂形式になっているので使いやすい。昨今、和英辞典も目白押しに出ているが、その和英辞典の横において、ちょっと確認するという使い方を私はしようと思っている。いろいろな新しいことを教えてくれる辞典である。

英語教育21世紀叢書

〈新刊 4 点〉



早川幹弘

(愛知県立千種高等学校教諭)

『英語力はどのように伸びてゆくか』

—中学生の英語習得過程を追う— (太田 洋 他著)

新しいカリキュラムの導入に伴い、授業を円滑に進めるためには、新入生が中学校で何を学習してきたのかを高校教師が今まで以上に確認する必要がある。今回、本書を読み、中学生の英語学習の実態を知る上で大変力強い味方が現れたと思うと同時に、高校教師が中学教科書を目を通して文法事項や学習語彙を知るだけでは不十分だと痛感した。本書では4名の著者が東京学芸大学附属世田谷中学校で学んだ生徒の膨大なデータを丹念に調べ上げ、中学3年間で生徒がどのように英語を学んでいくかを実証的に研究している。生徒が中学校3年間で接する語彙と生徒が実際に使える語彙、生徒の語彙サイズと英語力との関係、文法の習得過程等々が、膨大な資料の検証を裏付けにして報告されている。英語教育に携わる者にとって、本書は初期の英語学習者の様々な特徴を知る上で大いに参考となる。

(本体価格1,900円)



『「苦手」を「好き」に変える英語授業』(瀧口 優 著)

授業がうまいと唸られる先生には、教材への切り込み方や授業の工夫は言うまでもなく、生徒を見る観察力の深さに感心させられる。本書で瀧口優先生が紹介する、生徒の興味や関心を喚起する授業アイデアは、緻密な生徒観察力・生徒理解に裏打ちされており、そういう方法もあるのかと感嘆させられる。生徒との問答形式による「授業ノート」の作成や年間100号を越す「教科通信」の発行は、分かる授業をしよう、生徒と密なコミュニケーションを取ろうとする瀧口先生の熱い情熱の現れなのであろう。また、目の前の生徒に合わせて、学習ステップを到達目標まで無理

なく組む瀧口先生の手法は実に巧みである。生徒は授業に魅せられ、夢中になり、英語が苦手な生徒も徐々に英語好きに変身していく。

(本体価格1,700円)



『英語教師のための Excel 活用法』(清川英男 他著)

英語教師が使うコンピュータソフトはワープロソフトが多く、表計算ソフトは単純な成績処理に利用する程度ではないだろうか。表計算ソフトに関する解説書を読めば、様々な機能が使いこなせるようになるのかもしれないが、読む時間がなかったり、難解な解説のために読み通すことは難しい。しかし、本書を読むと、「英語教師の」という枕詞が付いているだけに、英語教師にとってすぐに使える機能が精選されている。たとえば、素点や記号の評点への変換法、評点分布表の作成法、考査問題の妥当性を弁別力係数で測る方法等が丁寧に紹介されている。授業改善を図ろうとすると、本書を参考にすればデータ処理に費やす時間と労力が大幅に節約でき、大きな成果が期待できそうだ。

(本体価格1,800円)



『日本語を活かした英語授業のすすめ』

(吉田研作・柳瀬和明 著)

第1部では、コミュニケーション・アプローチの本来の考え方、日本での英語教育におけるこのアプローチの有効的な扱いについて吉田研作先生が説明している。コミュニケーション・アプローチを使って英語を指導する際、全て英語で教えなければいけないと考えがちである。しかし、日本が抱える特殊なEFL環境では、日本語の適切な使用が本来の考え方に合致するものであることを、吉田先生は多くの研究成果を引用しつつ科学的に説明している。

第2部は、柳瀬和明先生が日本語とは異なる特徴を持つ英語で日本人が自己表現する際の秘訣を紹介している。両言語を比較分析して各言語の特徴を明らかにし、日常使われている日本語を英語にしやすい日本語に変換するための「5つの処方箋」を紹介している。また、それに基づく授業展開例、生徒配布用プリントも掲載され、日本人生徒が英語で表現する際につまずきやすい部分を克服する授業が、明日からでも実践できるようになっている。

(本体価格1,700円)